



台灣詩集

あ、このうるわしくさわやかな世界

光と影、たわむれと笑いに満ち

ひまわりは朝の太陽に礼拝しひばりは黎明を称えて歌う

虹の橋は黄金の田野の上にかかり

鐘の音は谷間の白い小さな花々をふるわす

だが―突然 何もかもが静まりかえって

私の心のようにこんな静まりかえって

はじめて知る、私は、この世界の重みを

世界現代詩文庫／12／台灣詩集

訳・編者―北 影一

装 幀―蔦本 咲子

発行者―笛木 利忠

発行所―土曜美術社

東京都新宿区市谷薬王寺町八二番地

〒一六二 電話〇三（三三五）六七二六 振替東京七九九二九二

発行一九八六年七月二〇日

定価九八〇円

ISBN4-88625-153-6 C0192 ¥980E

世界現代詩文庫

⑫

台灣詩集

編・訳 北影一／監修 小野十三郎・小海永二

土曜美術社

世界現代詩文庫

12

台灣詩集

目次

白 靈 (パイリン) … 万里の長城 ・ 12

周夢蝶 (チヨ モンティエ) … 樹。菩提樹の下 ・ 13

施明正 (ス ミンチヨン) … 渡り鳥 ・ 15

陳千武 (チエン チエンウ) … 傷ついた言葉 ・ 16

羊令野 (ヤング リンイエ) … 馬山から大陸を望む ・ 18

鄭愁予 (チエン チュイユ) … 古城 ・ 20

鍾順文 (チヨン スンウン) … かかし ・ 21

黃樹根 (ファン スクン) … 情婦と妻 ・ 22

李魁賢 (リ クエイシエン) … 鸚鵡 ・ 23

陳坤崙 (チエン クンルン) … 湯わかしの中の水 ・ 24

李仙生 (リ シエンセン) … 日記 ・ 25

許達然 (シ タラン) … 私の影 ・ 26

辛 鬱 (シン イユ) … 自画像 ・ 27

周鼎	(チヨ ティン) : D A D A	・ 28
趙天儀	(チャオ テンイ) : 夜霧	・ 29
方思	(ファン ス) : 重み	・ 30
楊牧	(ヤング ム) : 孤独	・ 31
黃騰輝	(ファン グ テンフェイ) : 悲哀	・ 32
彭捷	(ポン チェ) : 風	・ 33
錦連	(チン レン) : 轢死	・ 34
鍾鼎文	(チヨン ティンウン) : 髪	・ 35
趙廼定	(チャオ ナイティン) : 恐ろしくどんよくな胃袋	・ 36
張香華	(チャン グ シャングファ) : 梨	・ 37
陳秀喜	(チェン シュシ) : 希望	・ 38
杜国清	(トウ クォチン) : 心くもる歌	・ 39
陳寧貴	(チェン ニンクエイ) : 泣いている剣	・ 41

- 拾 虹 (ス ホン) … 傘 ・ 42
- 向 明 (シャン グ ミン) … 腫瘍 ・ 43
- 管 管 (ク アン ク アン) … 蚕 ・ 44
- 商 禽 (シャン グ チン) … 消火器 ・ 46
- 瘧 弦 (ヤ シェン) … 蛇の衣 ・ 47
- 紀 弦 (チ シェン) … 中国の霊 ・ 49
- 蓉 子 (ロン ツ) … 私の鏡は弓形の猫 ・ 51
- 李 春 生 (リ チュン セン) … 鏡 ・ 52
- 巫 永 福 (フ ヨン フ) … 含羞草 ・ 54
- 陳 明 台 (チェン ミン タイ) … 落ちてゆく ・ 55
- 向 陽 (シャン ヤング) … 我らはただの異なった流れではない ・ 57
- 張 默 (チャン ム) … 母への思い ・ 59
- 利 玉 芳 (リ イ ファン) … 古跡修復。心 ・ 61

- 洛 夫 (ロ フ) ……あの風のせいで ・ 63
 白 萩 (パイ チュ) ……広場。蛾 ・ 64
 沙 穂 (サ スエイ) ……城の堀 ・ 66
 渡 也 (トウ イエ) ……講師の日記 ・ 67
 棕色果 (チヨン ソクウオ) ……仮面 ・ 68
 劉克襄 (リウ カシヤング) ……革命青年 ・ 69
 非 馬 (フエイ マ) ……秋の窓 ・ 71
 陳鴻森 (チエン ホンセン) ……ともしび ・ 72
 蕭 蕭 (シアウ シァウ) ……氣象通報 ・ 73
 詹 冰 (チャン ピン) ……5月。田植 ・ 74
 林亨泰 (リン ホンタイ) ……力 ・ 75
 張 錯 (チャン チョ) ……茶の情詩 ・ 77
 鄭炯明 (チェン チイウミン) ……誤解 ・ 79

旅人（リレン）…名刺・80

岩上（イエンスン）…無常・81

許正宗（シチョンチョング）…べんとう・82

林清泉（リンチンチュエン）…幼年・83

林宗源（リンチョンイエーン）…一本の針でつくろう世界・84

李敏勇（リミンヨング）…種子・86

郭成義（クオチョンイ）…誤解・87

翔翎（シャングリン）…流れ去ったおまえ・88

余光中（イクァングチョング）…西螺大橋・89

雙虹（チュンホン）…逝・91

陳煌（チェンファン）…灰ざら・92

羅門（ロメン）…はるかなる中国大陆・93

徳有（トイユ）…蛙・94

吳晟（ウ セン）……恐れることはない ・ 95

曾貴海（チエン クエイハイ）……五ワットの電灯 ・ 96

梅新（メイ シン）……課長の椅子 ・ 97

宋澤萊（ソン チョライ）……うるわしい太平洋の星空の下 ・ 99

柯旗化（カ チファ）……母の悲願 ・ 103

林煥彰（リン ファンザング）……清明節 ・ 105

馮青（フォン チン）……秋刀魚 ・ 107

解説

李魁賢 台湾の現代詩の由来と変遷 ・ 110／北影一 ・ 119

あとがき

北影一 ・ 129

詩
篇

白
靈

本名莊祖煌。一九五一年福建省に生まれる。現在、台北工專講師。詩集『後裔』ほか。國軍文芸銀賞及び「中國時報」敘事詩賞を受賞。

万里の長城

私は思う。中国人がいつせいに

長城の銃眼に座をしめ

ふりあげる大鼓ばちに合わせ長い棹で

打ち漕ぐ、あらん限りの力で。かけ声と共に

長城を山から引き離し、渤海にこぎ入れる。

王位も官位も捨ててみな太平洋へでて

大いに叫び歌えばこれは楽しい中国の竜舟だ。

こうも思う、中国人がいつせいに

城壁に沿って並び

爆竹を鳴らしながら、長い竹竿を手にし

わーっと飛びかかって突きあげる。山が鳴り

長城が身を起こす。それを支えあげ

高原の上に出て舞い、江南を綾で飾り

東北には提灯を吊して賑かに騒げば

これは壮麗な中国の竜の舞だ。

時にはこうも思う、天地を創造した盤古の神に

お願いして、左足を陰山に、右足を秦嶺にかけ

腰をかがめて両手をのびし、全力で長城を

山海関から山や谷と共に持ちあげてもらう

それを神州の中心の甘肅に下せば

天下の人がみな驚き見上げるなかでそれは

紫色のもやに包まれて果てしなくくねりながら

千古の雲にまで届くだろう

これは壮嚴で威信に満ちた中国の竜柱だ

周夢蝶

一九二〇年河南省に生まれる。現在、書店経営。詩集『孤獨』ほか。

樹

光と影が果実となつて実る時

君は初めて昨日のことをおもいだす

その時の君の顔は上元節⁽¹⁾の夜よりもうるわしい

雨も雪もおりず啄木鳥もやってこない

せめてわずかの悩みでもあれば

わびしい時に自分を苛めるよすがにするのだが

君をして冷たく硬い地層を突き破らせたのは

火か？ それとも？

君にはきこえているにちがいない

君の血管の中をかけめぐる叫び声が

俺を一枚の葉にせよ！

霜をふらせて紅葉させよ！

流れる水の上に軽く浮かばせよ！

目醒めればあたりは一面のあさみどり

雪の降る夜きこえてくる

すがすがしい青い鳥の羽ばたく音

(1)上元節

旧暦一月十五日夜。元宵とも言ふ。

菩提樹の下

心の中に鏡を隠し持っているのは誰だろう

一生をはだしで渡る人がいるだろうか

すべての知見は目によって遮られた

雪の中から火をとり

火を溶かして雪に変えうるのは誰だろう

菩提樹の下で

と片側の顔しか持たぬ一人が

目を天に向け溜め息まじりにこたえる

かの高き所から

彼を見下している紺碧の空

そう　ここは誰かが坐っていた場所

草は深い緑色

修道者の足音が遠のいたとしても

君はいぜん万物の響きを枕にし

風月の背と差し向かいに

密談するよろこびを持つ

着座していくつもの春をむかえ

何度もの夏をやりすごしたことが

君がきた時は

雪は雪で君は君だった

一泊した後雪はもう雪でなくなり

君は君ではなくなった

やっと零下十年になった今夜⁽¹⁾

最初の流れ星が一閃光芒を放つ

君は驚愕の中でさとり

雪は雪で君はやはり君だったと

修道者の足音が遠のいたとしても

草は深い緑色

(1)十年

菩提樹の下の仏は流星をみて悟を開いた。

施明正

一九三四年台灣高雄に生まれる。小説『魔鬼の自画像』『島の愛と死』ほか

渡り鳥

私たちは九月の渡り鳥

西太平洋の孤島に下りて

息をととのえているところだ

いくら眺めてもあきない島のうるわしい風景

緑の島の青く澄んだ空にまいあがり

風によって反転しながらとぶのも楽しい

私たちには人がうらやむ羽がある

パスポートなしでも

国境をこえてどこへでもとべる

私たちにはきまった職も家もない

けれど糧やねぐらのことで困ったことはない

私たちには警察も牢獄もないから

密告や刑罰もない

ごろつきの特務もいなければ

暗殺などというのものない

擄取が何であるかも知らない

人がうらやむほど私たちは自由だ

だが私たちも時には

しかけられたかすみ網にとらえられ

串にさされて焼かれる

自由と平和を唱える人間たちによって